

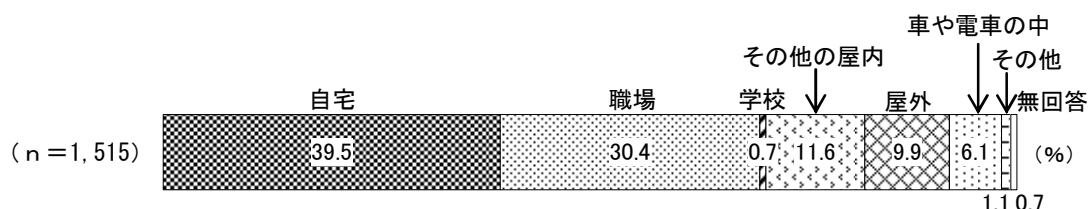
5 【防災に関する取り組みについて】

(1) 東日本大震災の発生当時いた場所

◇「自宅」が約4割、「職場」が3割

問24 今回の地震が発生した3月11日午後2時46分頃、あなたはどこにいましたか。(○は1つ)

<図表24-1> 東日本大震災の発生当時いた場所



東日本大震災が発生した平成23年3月11日午後2時46分頃、どこにいたかを聞いたところ、「自宅」(39.5%)が約4割で最も多くなっており、以下、「職場」(30.4%)、「その他の屋内」(11.6%)、「屋外」(9.9%)などが続く。(図表24-1)

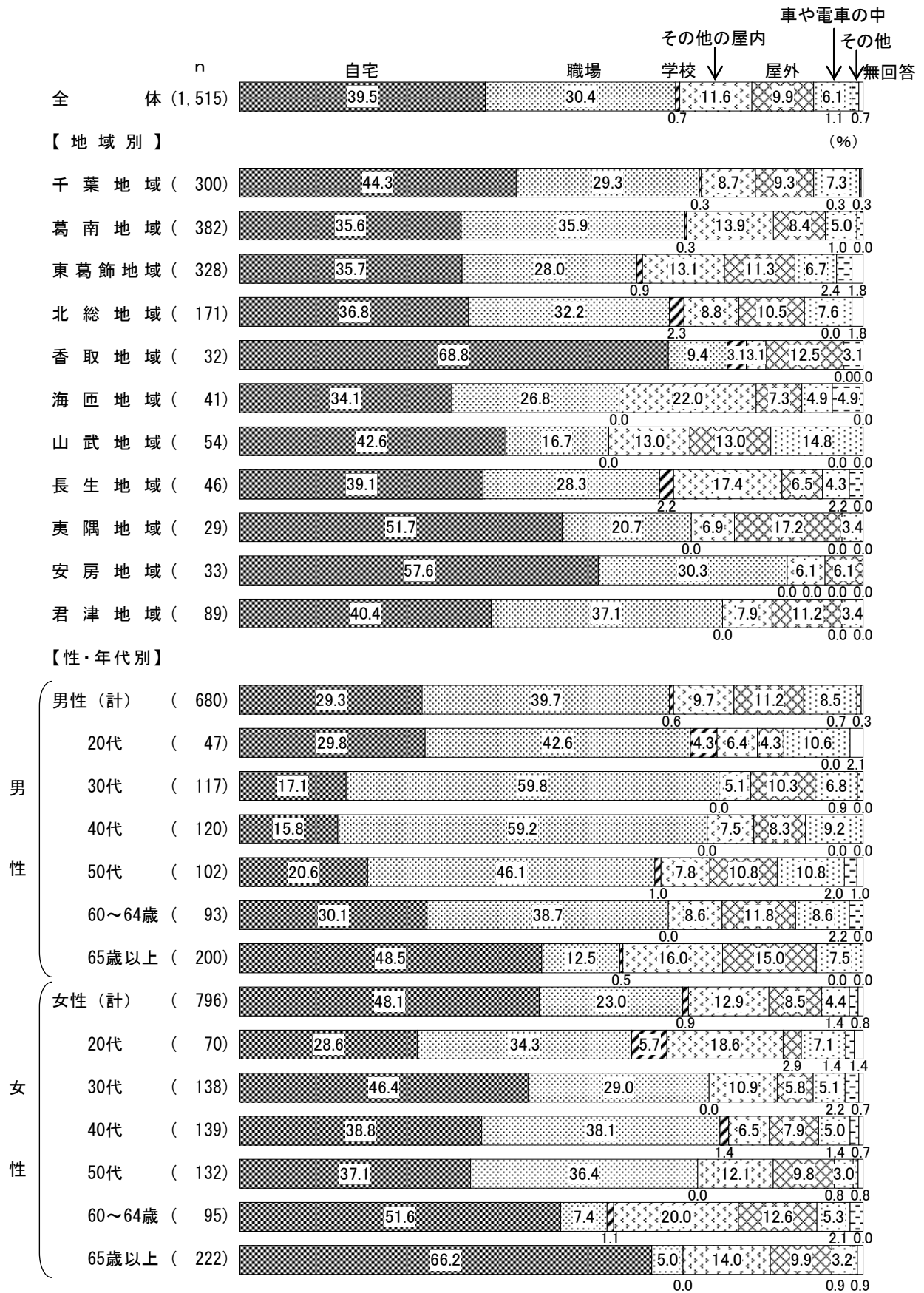
【地域別】

地域別にみると、「自宅」は“香取地域”(68.8%)が約7割、“安房地域”(57.6%)が約6割となっている。「その他の屋内」は“海匝地域”(22.0%)が2割を超えている。(図表24-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「自宅」は女性(48.1%)の方が男性(29.3%)より18.8ポイント多くなっており、特に女性65歳以上(66.2%)が6割台半ばとなっている。「職場」は男性(39.7%)の方が女性(23.0%)より16.7ポイント多く、特に男性30代(59.8%)・40代(59.2%)がともに約6割となっている。(図表24-2)

<図表24-2> 東日本大震災の発生当時いた場所／地域別、性・年代別

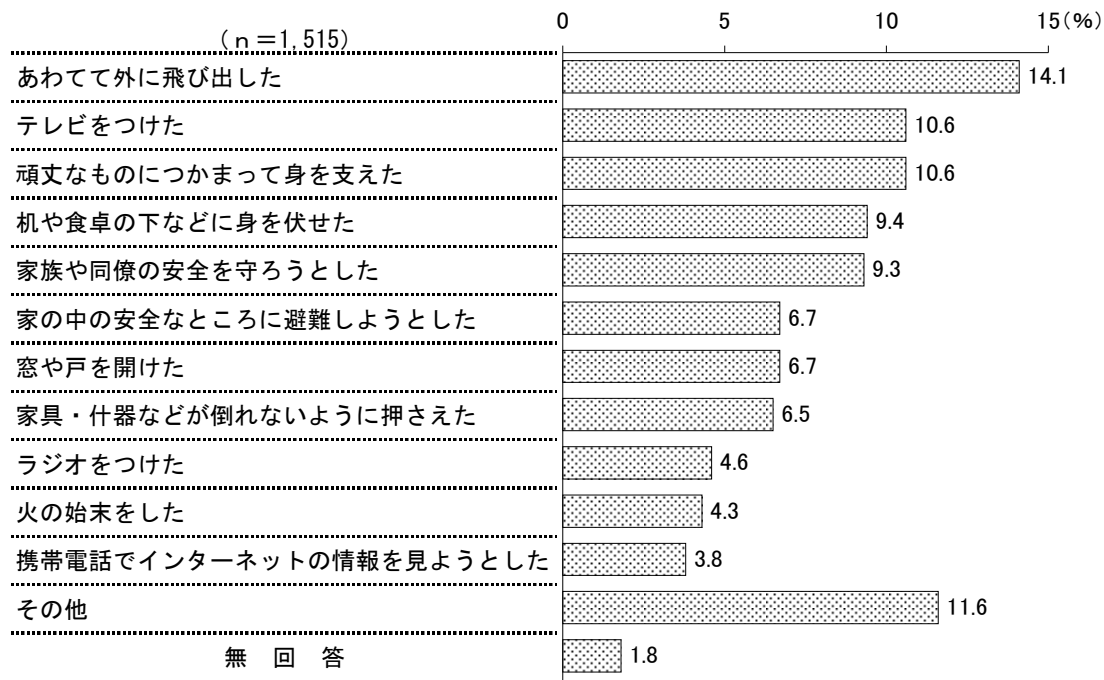


(2) 東日本大震災の発生直後にとった行動

◇「あわてて外に飛び出した」が1割台半ば

問25 あなたは本震が起きた直後に、どんな行動をとりましたか。(○は1つ)

<図表25-1> 東日本大震災の発生直後にとった行動



東日本大震災の本震が起きた直後にどんな行動をとったか聞いたところ、「あわてて外に飛び出した」(14.1%)が1割台半ばで最も多くなっており、以下、「テレビをつけた」(10.6%)、「頑丈なものにつかまって身を支えた」(10.6%)、「机や食卓の下などに身を伏せた」(9.4%)、「家族や同僚の安全を守ろうとした」(9.3%)などが続く。(図表25-1)

【地域別】

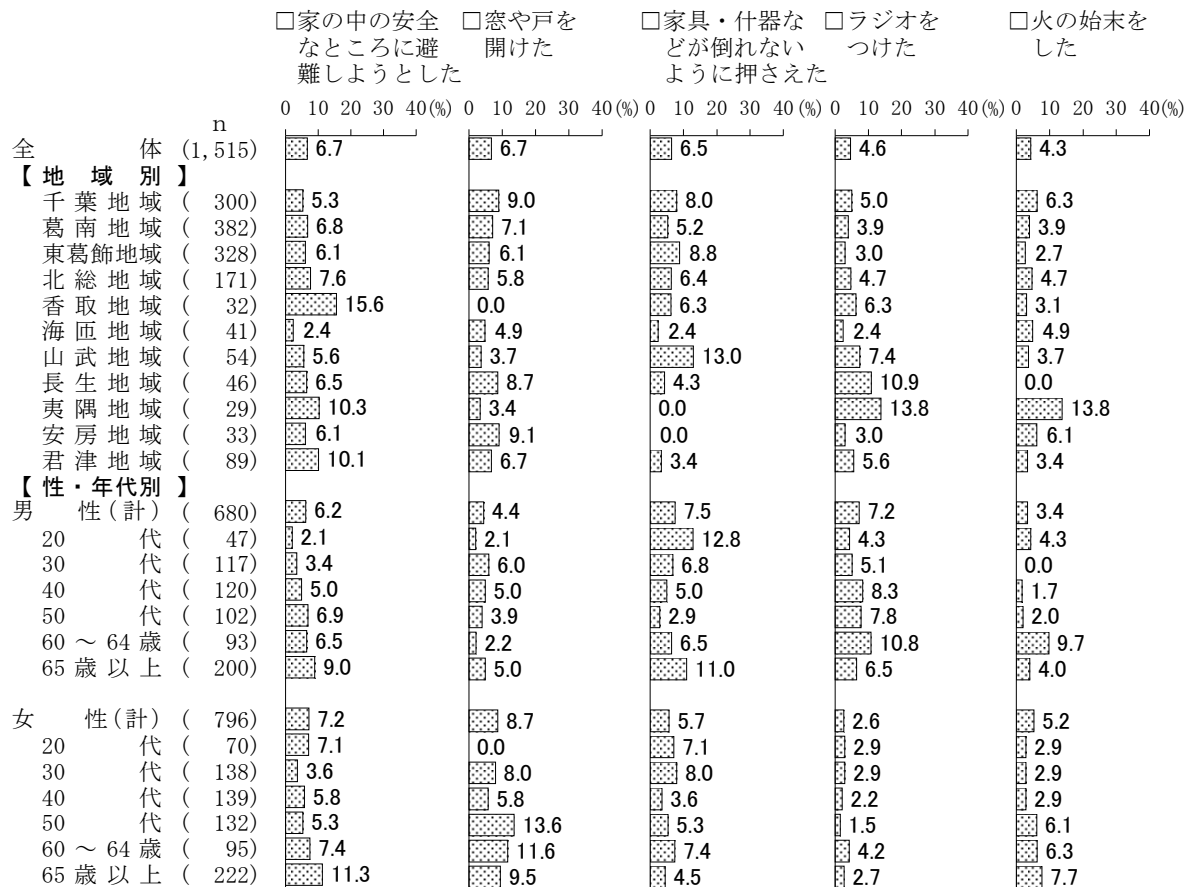
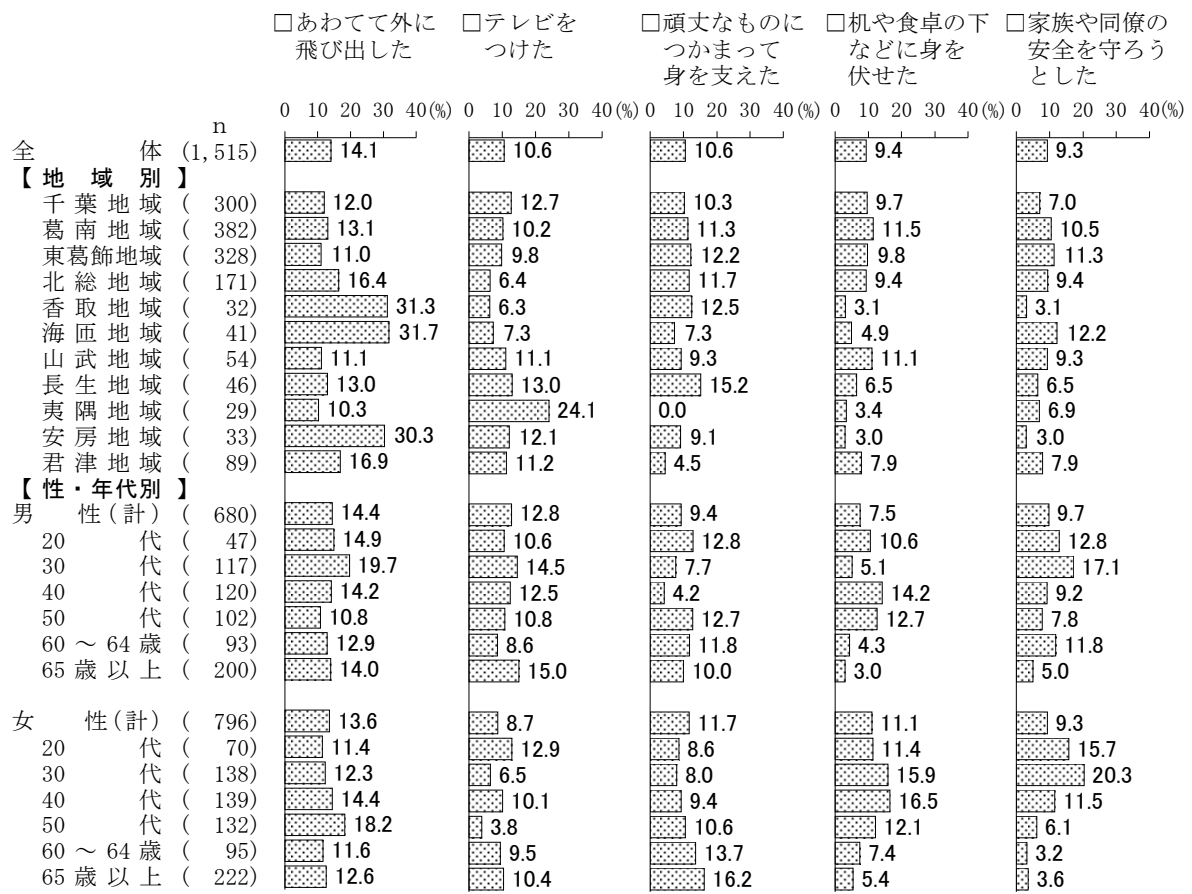
地域別にみると、「あわてて外に飛び出した」は“海匝地域”(31.7%)、“香取地域”(31.3%)、“安房地域”(30.3%)がいずれも3割を超えている。「テレビをつけた」は“夷隅地域”(24.1%)が2割台半ばとなっている。(図表25-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「あわてて外に飛び出した」は男性30代(19.7%)と女性50代(18.2%)が約2割となっている。「家族や同僚の安全を守ろうとした」は女性30代(20.3%)が2割となっている。

(図表25-2)

<図表25-2> 東日本大震災の発生直後にとった行動／地域別、性・年代別（上位10項目）

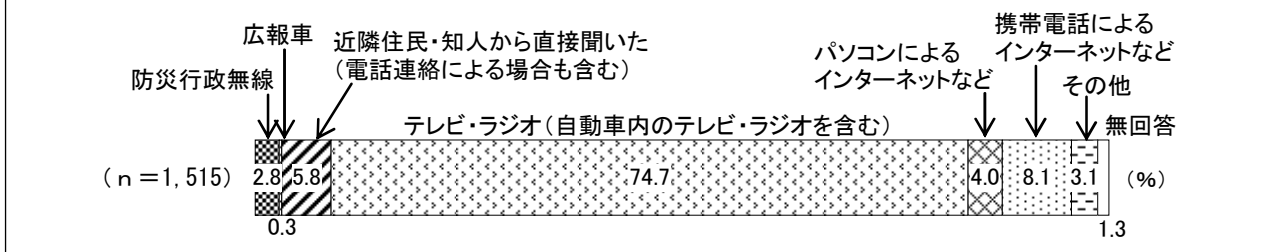


(3) 東日本大震災に関する情報を最初に得たときの情報入手手段

◇「テレビ・ラジオ（自動車内のテレビ・ラジオを含む）」が7割台半ば

問26 あなたは、最初に震災の情報を何から入手しましたか。（○は1つ）

＜図表26－1＞東日本大震災に関する情報を最初に得たときの情報入手手段



最初に東日本大震災の情報を何から入手したか聞いたところ、「テレビ・ラジオ（自動車内のテレビ・ラジオを含む）」（74.7%）が7割台半ばで最も多くなっており、以下、「携帯電話によるインターネットなど」（8.1%）、「近隣住民・知人から直接聞いた（電話連絡による場合も含む）」（5.8%）などが続く。（図表26－1）

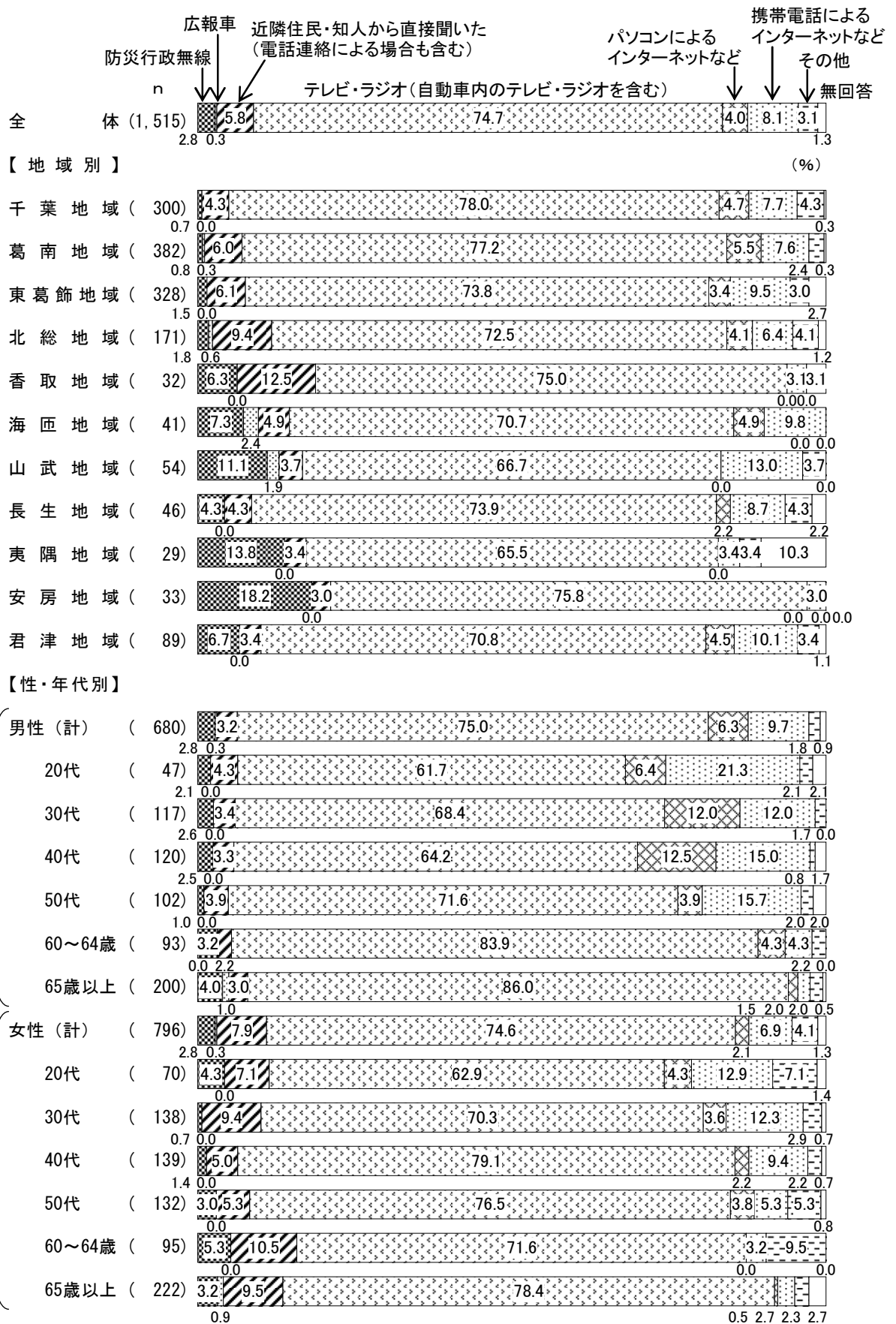
【地域別】

地域別にみると、「携帯電話によるインターネットなど」は“山武地域”（13.0%）と“君津地域”（10.1%）が1割を超えている。「近隣住民・知人から直接聞いた（電話連絡による場合も含む）」は“香取地域”（12.5%）が1割を超えている。「防災行政無線」は“安房地域”（18.2%）が約2割となっている。（図表26－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「テレビ・ラジオ（自動車内のテレビ・ラジオを含む）」は男性60～64歳（83.9%）・65歳以上（86.0%）がともに8割台半ばとなっている。「携帯電話によるインターネットなど」は男性20代（21.3%）が2割を超えており、男性40代（15.0%）・50代（15.7%）が1割台半ばとなっている。「近隣住民・知人から直接聞いた（電話連絡による場合も含む）」は女性60～64歳（10.5%）が1割となっている。「パソコンによるインターネットなど」は男性30代（12.0%）・40代（12.5%）が1割を超えている。（図表26－2）

＜図表26-2＞東日本大震災に関する情報を最初に得たときの情報入手手段／地域別、性・年代別

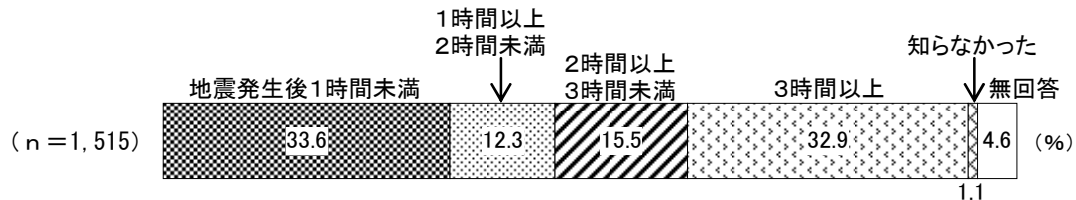


(4) 家族・友人等と最初に連絡が取れるまでに要した時間

◇「地震発生後1時間未満」と「3時間以上」がともに3割を超える

問27 家族・友人等と最初に連絡が取れるまでにどれくらい時間が掛かりましたか。(○は1つ)

<図表27-1> 家族・友人等と最初に連絡が取れるまでに要した時間



家族・友人等と最初に連絡が取れるまでにどれくらい時間が掛かったか聞いたところ、「地震発生後1時間未満」(33.6%)と「3時間以上」(32.9%)がともに3割を超えて多くなっている。

(図表27-1)

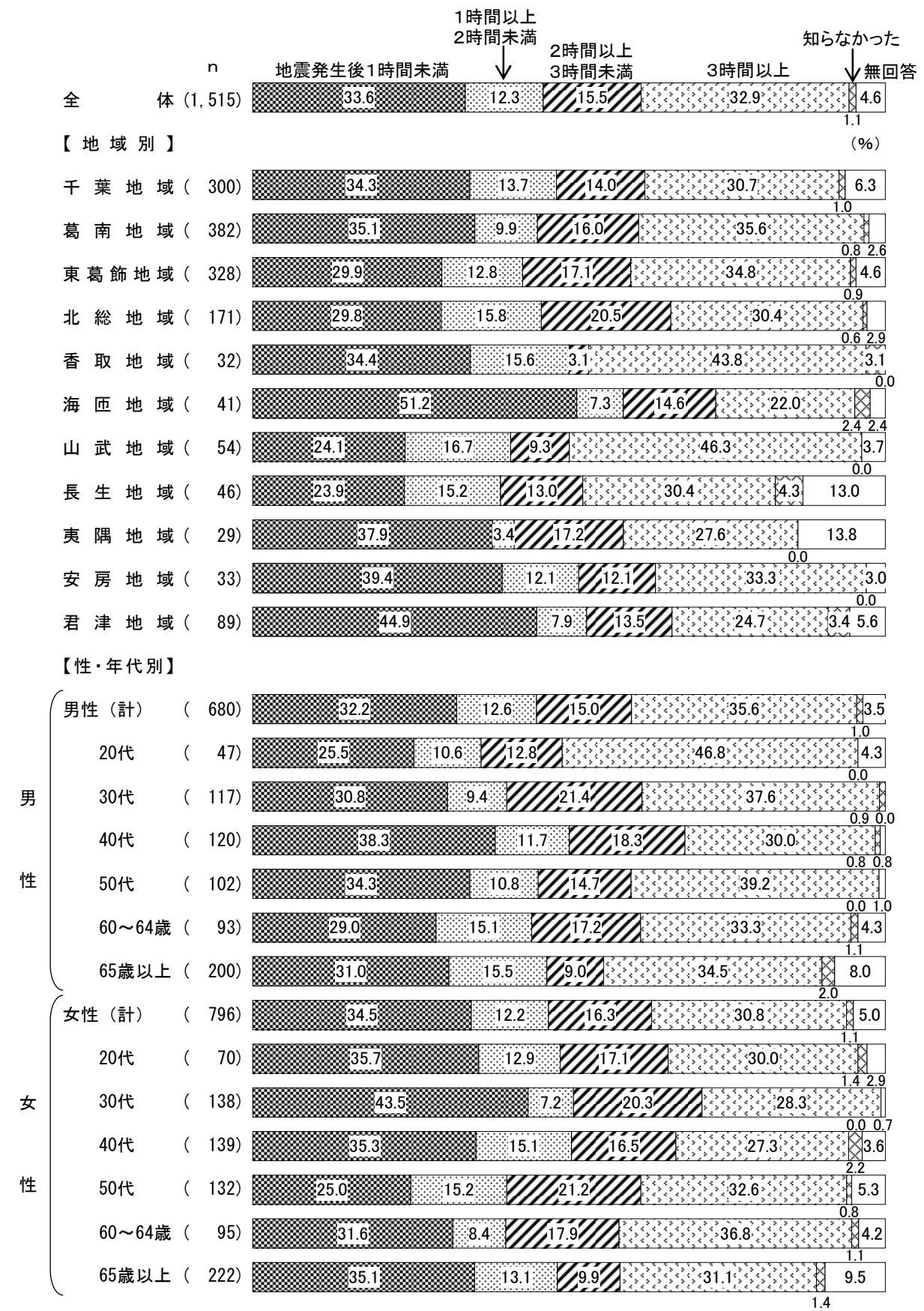
【地域別】

地域別にみると、「地震発生後1時間未満」は“海匠地域”(51.2%)が5割を超え、“君津地域”(44.9%)が4割台半ばとなっている。「3時間以上」は“山武地域”(46.3%)と“香取地域”(43.8%)がともに4割台半ばとなっている。(図表27-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「地震発生後1時間未満」は女性30代(43.5%)が4割台半ばとなっている。「3時間以上」は男性20代(46.8%)が4割台半ばとなっている。(図表27-2)

<図表27-2> 家族・友人等と最初に連絡が取れるまでに要した時間／地域別、性・年代別



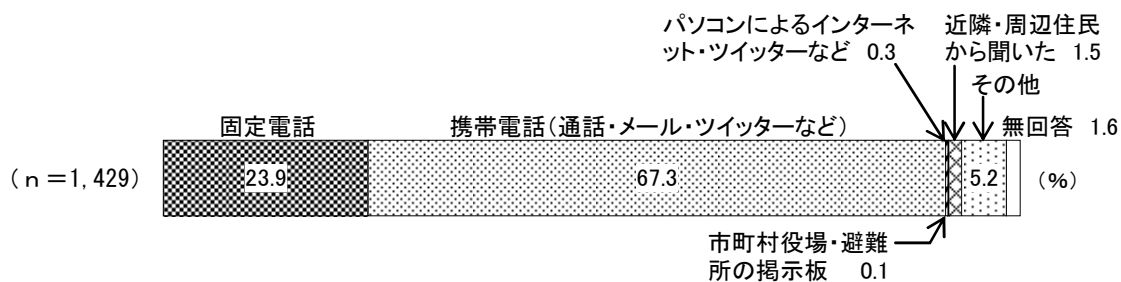
(4-1) 家族・友人等と最初に連絡を取ったとき利用した連絡方法

◇「携帯電話（通話・メール・ツイッターなど）」が約7割

(問27で「地震発生後1時間未満」「1時間以上2時間未満」「2時間以上3時間未満」「3時間以上」とお答えの方に)

問27-1 家族・友人等と最初に連絡を取るのに用いた手段は何ですか。(○は1つ)

<図表27-1-1> 家族・友人等と最初に連絡を取ったとき利用した連絡方法



東日本大震災の発生後に家族・友人等と連絡を取ったと答えた人(1,429人)に、最初に連絡を取るのに用いた手段を聞いたところ、「携帯電話(通話・メール・ツイッターなど)」(67.3%)が約7割で最も多くなっており、次いで「固定電話」(23.9%)が2割台半ばとなっている。(図表27-1-1)

【地域別】

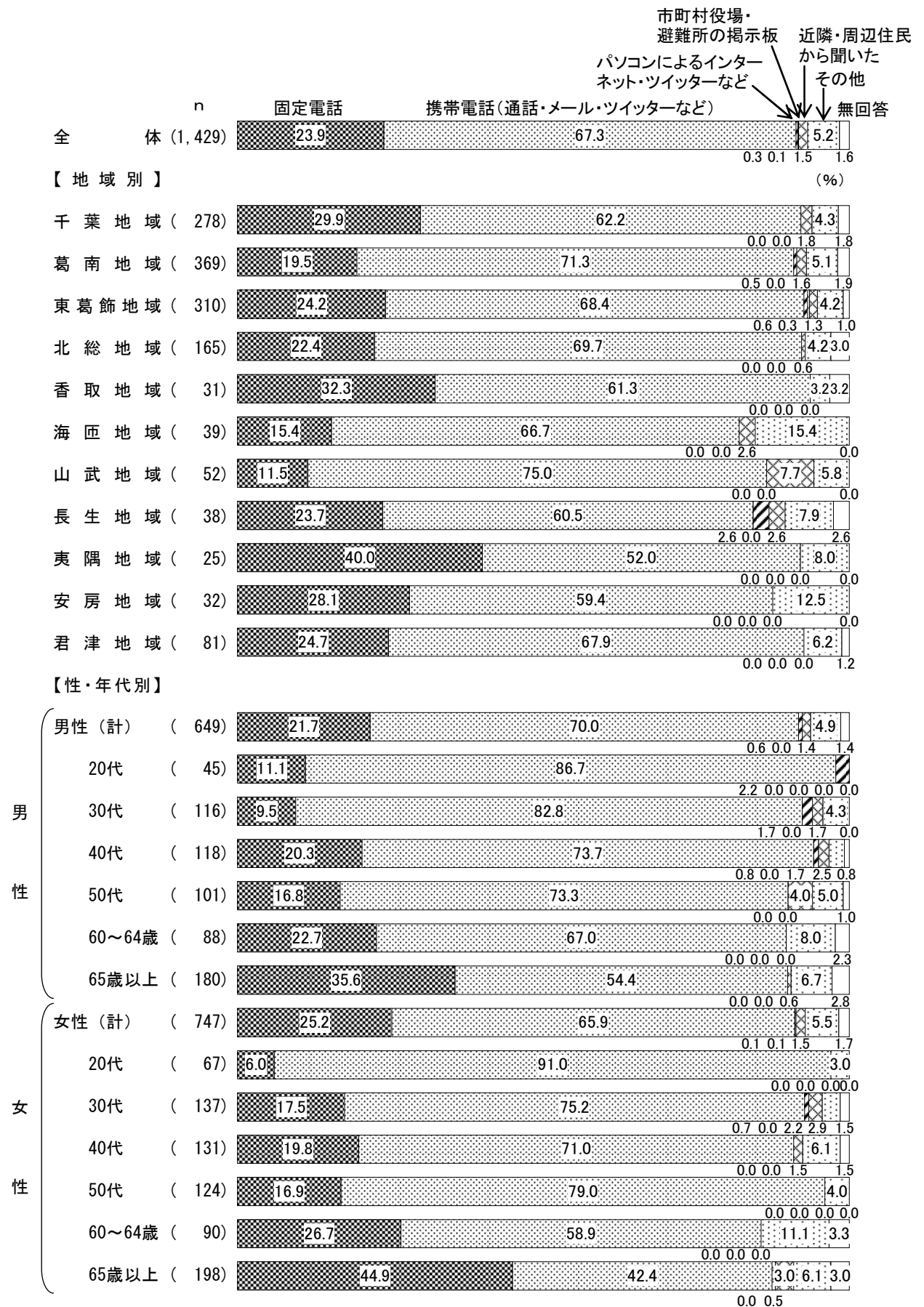
地域別にみると、「固定電話」は“夷隅地域”(40.0%)で4割と多く、“香取地域”(32.3%)で3割を超えている。(図表27-1-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「携帯電話(通話・メール・ツイッターなど)」は女性20代(91.0%)で9割を超え、男性20代(86.7%)・30代(82.8%)でも8割台と多くなっている。「固定電話」は男女とも65歳以上(男性35.6%、女性44.9%)で他の年代に比べて最も割合が多くなっている。

(図表27-1-2)

<図表27-1-2> 家族・友人等と最初に連絡を取ったとき利用した連絡方法／地域別、性・年代別

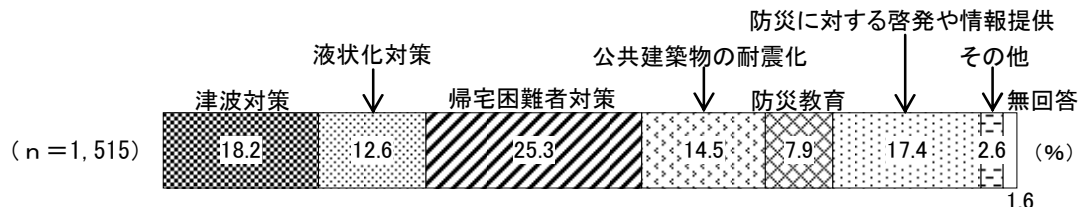


(5) 今後の防災対策に対する要望

◇「帰宅困難者対策」が2割台半ば

問28 今回の震災後、県に求めることは何ですか。(○は1つ)

<図表28-1>今後の防災対策に対する要望



今回の震災を受けて、県に求める防災対策は何か聞いたところ、「帰宅困難者対策」(25.3%)が2割台半ばで最も多くなっており、以下、「津波対策」(18.2%)、「防災に対する啓発や情報提供」(17.4%)、「公共建築物の耐震化」(14.5%)、「液状化対策」(12.6%)などが続く。(図表28-1)

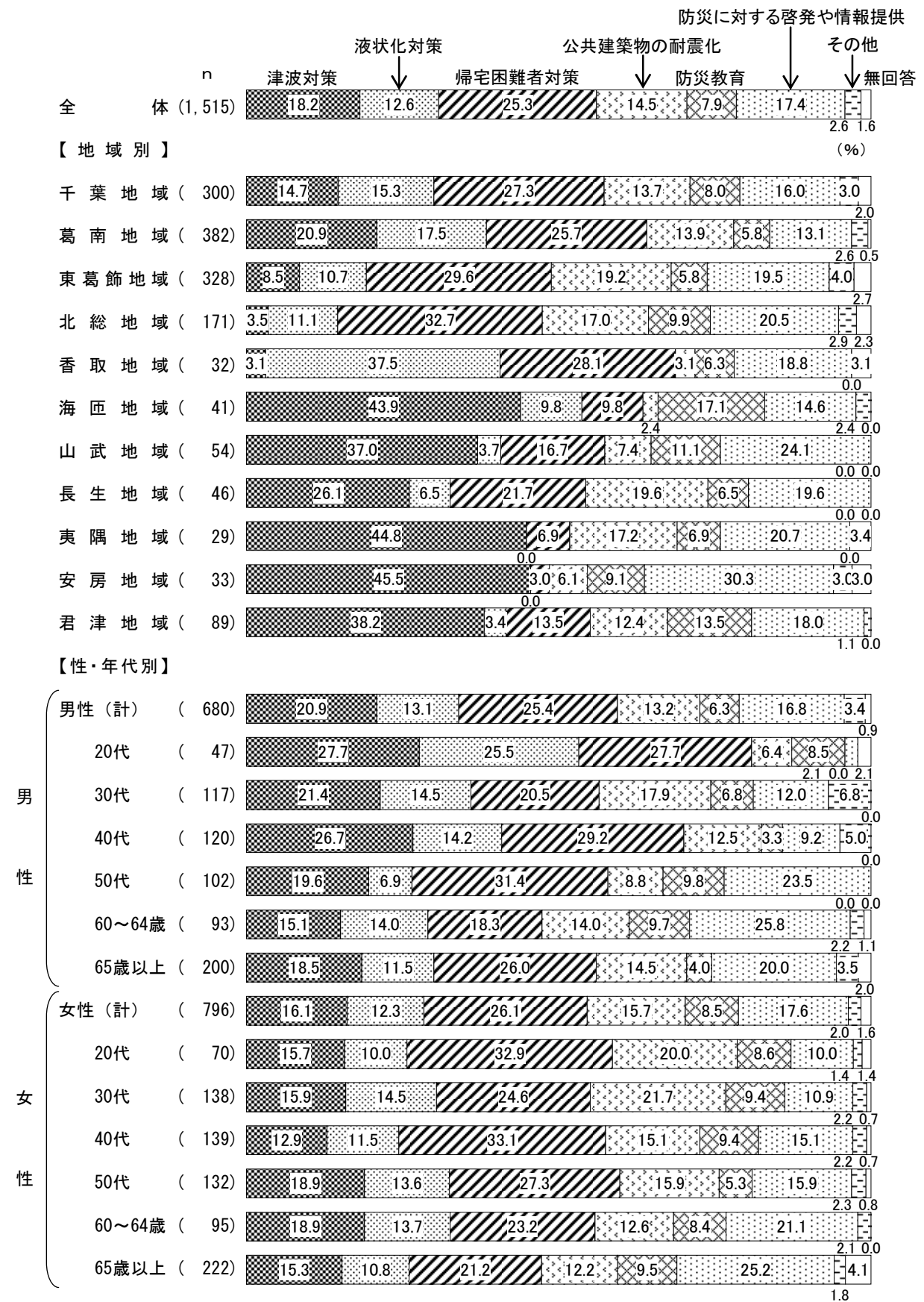
【地域別】

地域別にみると、「帰宅困難者対策」は“北総地域”(32.7%)が3割を超えている。「津波対策」は“安房地域”(45.5%)、“夷隅地域”(44.8%)、“海匝地域”(43.9%)でいずれも4割台半ばと多くなっている。「防災に対する啓発や情報提供」は“安房地域”(30.3%)で3割となっている。「液状化対策」は“香取地域”(37.5%)で約4割と多くなっている。「防災教育」は“海匝地域”(17.1%)で約2割となっている。(図表28-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「津波対策」は男性20代(27.7%)が約3割となっている。「防災に対する啓発や情報提供」は男性60～64歳(25.8%)と男性50代(23.5%)、女性65歳以上(25.2%)で2割台半ばとなっている。「液状化対策」は男性20代(25.5%)で2割台半ばとなっている。「公共建築物の耐震化」は女性30代(21.7%)で2割を超えている。(図表28-2)

<図表28-2> 今後の防災対策に対する要望／地域別、性・年代別

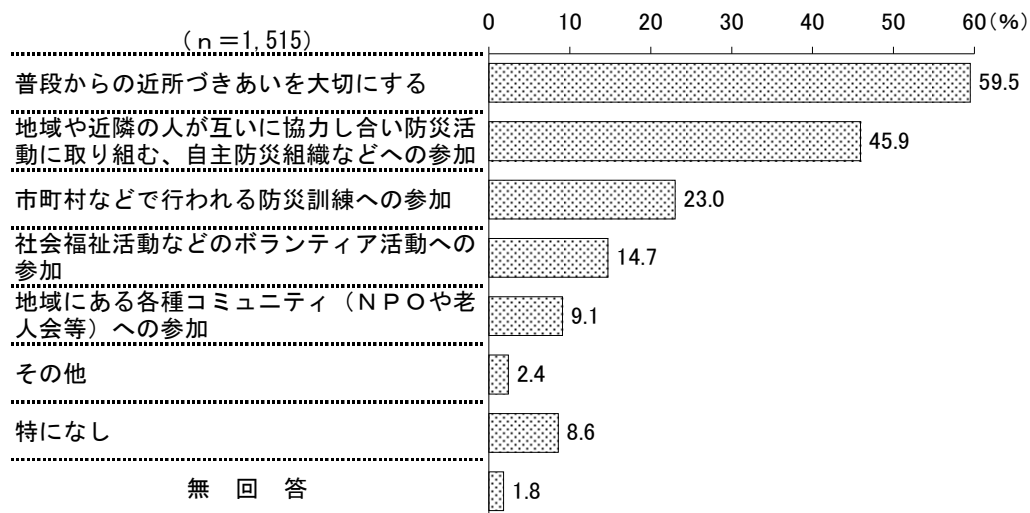


(6) 東日本大震災を契機として今後取り組みたいこと

◇「普段からの近所づきあいを大切にする」が約6割

問29 東日本大震災では、津波からの避難や救助、避難生活等を通じて、個人や地域での「絆」「つながり」「支え合い」の大切さが再認識されました。あなたが、今回の震災を契機に、今後新たに取り組みたいと思うものは何ですか。(〇はいくつでも)

<図表29-1> 東日本大震災を契機として今後取り組みたいこと



東日本大震災を契機に、今後新たに取り組みたいと思うものを聞いたところ、「普段からの近所づきあいを大切にする」(59.5%)が約6割で最も多くなっており、以下、「地域や近隣の人が互いに協力し合い防災活動に取り組む、自主防災組織などへの参加」(45.9%)、「市町村などで行われる防災訓練への参加」(23.0%)などが続く。(図表29-1)

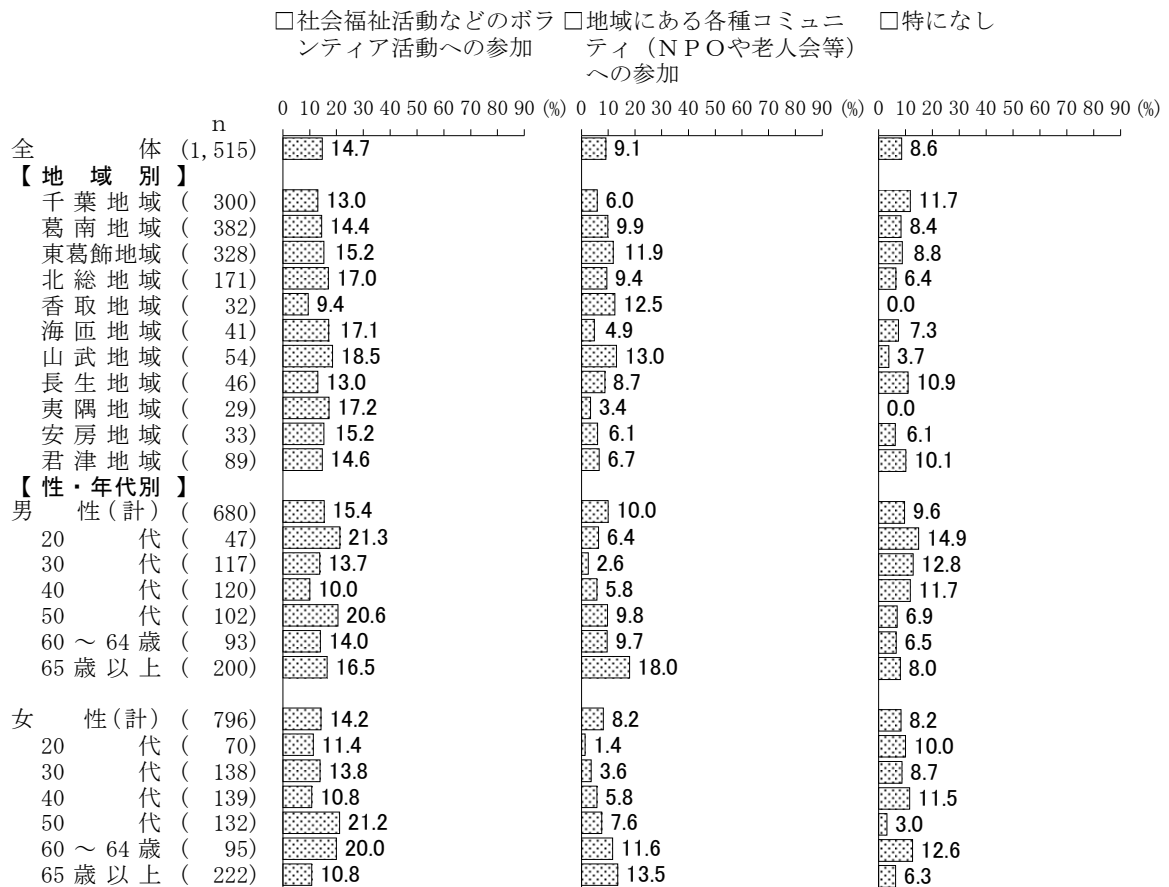
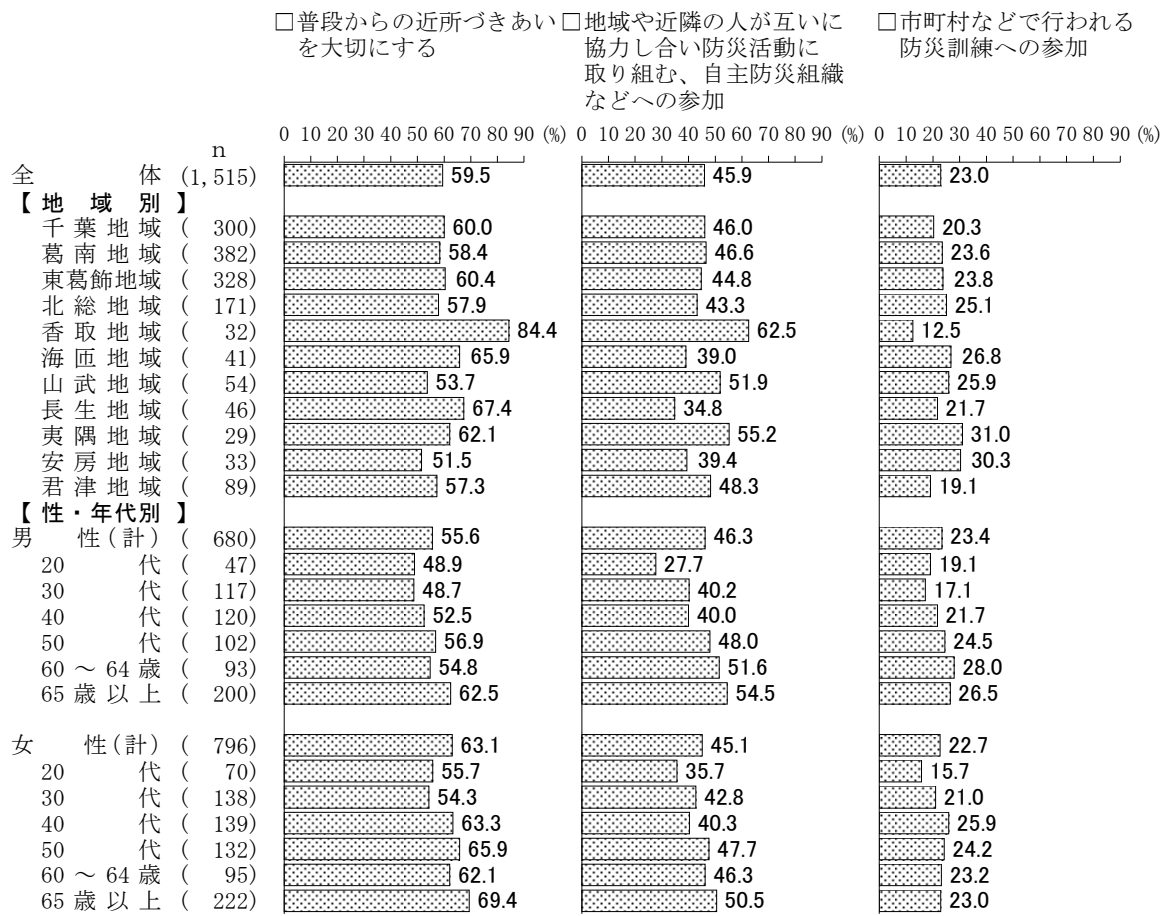
【地域別】

地域別にみると、「普段からの近所づきあいを大切にする」は“香取地域”(84.4%)が8割台半ばで多くなっている。「地域や近隣の人が互いに協力し合い防災活動に取り組む、自主防災組織などへの参加」も“香取地域”(62.5%)で6割を超えて多くなっている。(図表29-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「普段からの近所づきあいを大切にする」は女性65歳以上(69.4%)が約7割となっている。「地域や近隣の人が互いに協力し合い防災活動に取り組む、自主防災組織などへの参加」は男性65歳以上(54.5%)で5割台半ばとなっている。(図表29-2)

<図表29-2> 東日本大震災を契機として今後取り組みたいこと／地域別、性・年代別（上位6項目）



このほかに、「防災に関する取り組みについて」やここまでの質問（問24～問29）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、165人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「防災に関する取り組みについて」の自由回答（抜粋）

- 東日本大震災に限らず、震災を経験された方の生の声が聞きたいです。どのような行動をとったのか、日頃から気をつけておくことは何か、知識があるのとないのとでは雲泥の差ではないかと思っています。あと大事だと思ったのが“津波訓練”。どんな場所に住んでいても必要なのでは。（女性・30代・千葉地域）
- 東日本大震災のとき、私1人で留守番をしていたが、近所に寝たきりの独居老人がいる為、本当に今回の地震でどうしていいか、自分だけ逃げていいのか迷いました。声をかけるのが精いっぱいでした。（女性・65歳以上・山武地域）
- 避難所の場所や津波がおきたらどこまで逃げたらいいかなど情報をもっとほしいです。また私の近所の避難所の小学校は、土地の低い所にあり、今回の地震でここに避難して大丈夫なのかと思いました。もう一度再考してほしいです。（男性・20代・葛南地域）
- 近所に声をかけ合って無事であることを確かめあうことが大切だと思う。（女性・65歳以上・千葉地域）
- 避難場所に学校が指定されているが、その耐震性はどのくらいあるのか公表してほしい。東日本大震災は今までの地震とは違う想定外のものだったので、現在の学校や公共施設の耐震性を公表して、これからの避難場所を決めたらどうか。（男性・65歳以上・長生地域）
- 事前準備をぬかりなくしておくことと、訓練の重要性を感じた。普通の携帯電話や電話の使用法以外に連絡手段を確保したりしておいた方が良いとわかった。（女性・30代・東葛飾地域）
- 地域の津波対策を強化すること、東京湾岸でも太平洋側と同様の対策を行うこと、石油コンビナートの耐震基準の見直し、構造強化も加えて検討してほしい。（女性・50代・千葉地域）
- 避難場所が確保出来れば、まずは気持ちが落ちつき、次を考えられると思うので、安全な避難場所と情報の伝達を1番に推進願いたい。（男性・60～64歳・北総地域）
- ツイッターからの情報に本当に助けられました。帰宅困難者にオフィスを開放するなどの情報がいち早く回って来たので、県でもそういった情報発信のアカウントがあっても良いと思います。（女性・20代・香取地域）
- 東日本大震災では、津波により市町村役場の機能が失われた所が多数あったため、自治体の事業継続性を考慮した危機管理、機能分散や多重化が必要と考えます。（男性・40代・千葉地域）